



2026年度
第2回
大学院理工学研究科
生命機能学専攻（生命機能学領域） 博士後期課程

入学試験問題

[専門科目]

2026年2月18日（水）
9:30～11:30

解答要領

1. 解答は、別冊解答用紙に行うこと。解答用紙表紙の解答要領をよく読むこと。
2. 問題用紙・解答用紙ともすべて提出すること。

受験番号	
------	--

2026年度第2回法政大学大学院理工学研究科入学者選抜試験問題用紙

試験科目	生命機能学専攻 (生命機能学領域) 博士後期課程
小論文	

全ゲノムシーケンスの技術的進歩とデータ蓄積について述べた上で、その生物学・生命科学における意義について議論せよ。必ずしも自分の研究分野と関連付けなくともよい。文章全体にタイトルをつけ、論旨に従ってセクション分けすること。字数はとくに指定しないが、2,000字前後を目安とすること。

【補足事項】

執筆の目安: 本試験の解答用紙（横罫線入り）は1ページあたり35行の設定である。1行に30文字程度を記入すると1ページで約1,050文字となるため、解答としての小論文の分量は解答用紙2ページ分が目安となる。なお、タイトルも字数にカウントする。

形式上の注意: 各セクションにはサブタイトルを付すこと。なお、見やすさを考慮してセクションの間に空白行を入れる場合、それは字数にはカウントされない。

評価の視点: 単なる知識の羅列ではなく、生命科学全体を俯瞰するリテラシーと、適切に情報を整理し記述する論理構成力（ロジカルライティング）を評価の対象とする。